

世界の丹下健三

今村 亮

今年の春、赤プリ(赤坂プリンスを略す)と親まれた東京千代田区の赤坂グランド・プリンスホテルが老朽化のため来年3月には取り壊される予定と報道された。このホテルは、私が駆け出しのサラリーマンのころ、外人客を訪ねて足しげく通い、「お泊りのホテルは、私の出身高校の先輩の丹下健三(1913-2005)が建てたのですよ」と誇らしく話したものだ。40階のホテルの外装はアルミニウムでラミネートされ、朝夕陽光を受けて輝いていた。

丹下の紹介履歴は、往々広島高校(現在の広島大学)から始まり、四国での幼少時代は省略されてしまっている。

丹下は大阪生まれだが、銀行家の父に伴って中国の漢口、上海で幼年時代を過ごしている。今治のタオル会社経営に参与していた父の兄が急逝し、ぜひ、彼の仕事を引継いで欲しいと依頼された父が、銀行を辞めて帰国を決め、一家して今治に引き揚げてきた。

健三は、美須賀の第2尋常小学校に入学した。よく今治城趾の吹揚公園で遊び、桜井の浜にも遠征したという。以下、日経新聞社発行の自伝「一本の鉛筆から」(私の履歴書)から引用する。

『同じ美須賀の同級生から私を含め3人の建築家が生まれたことは非常に珍しいことだし特筆に値しますね。早稲田に行った徳永正三君、東京工大に行った重松淳雄君です。』

名誉市民賞をいただき帰省した時のことですが、2年生から6年生までの小学校の通知簿を見せていただいたのですよ。いや驚きました。そんなに古い記録をよく保存してくれていたのです。それに全科目、成績がこんなにずば抜けていたなんて覚えてもいなかったの、私自身がびっくりしたのですよ。

1926年、今治中学(現在の今治西高)に入学しました。そのころ、天文学にこっていました。望遠鏡を組み立てたのですよ。6インチの反射レンズを雑誌関係のコネで入手でき1メートル80センチの胴体を地元の鉄工所で作ってもらいました。月がレンズに入りきれないくらい拡大され神秘的な月面に感激、土星の輪や、太陽の黒点、銀河の星も一つ、一つ見れましたね。

中学の最終学年を飛び級で終わり、広島高校入学のため四国を離れた。』



Akasaka Prince Hotel (赤坂プリンスホテル)

丹下の今治生活は短く終わったが、今治市に彼が設計した建築物が数多いと聞き、嬉しく思った。郷土出身の世界級建築家を出した町として大いに誇りたい。1987年、彼は建築のノーベル賞と言われるプリツカー賞を受賞した。このプリツカー賞は、世界貢献した一連の数多くの作品があつてはじめて授与され賞である。

言うまでもなく、丹下の代表作は1964年東京オリンピックの国立屋内総合競技場、新東京都庁舎、広島平和記念公園および平和記念資料館等々、人々の記憶の中に生きている。



Imabari Civic Hall (今治市民会館)



Imabari City Office (今治市役所)